

人生のためのロータリー

八千代 鈴木 憲輔

ダクターマン R I 前会長は、一九九三年のアーハイムにおける国際協議会の冒頭で、次のように発言されております。「どのクラブでも講演を聞き、交友を楽しみ、昼食をともし、例会に出席するだけで奉仕と思つて満足しているメンバーがたくさんおります。……しかし私はこのたぐいのロータリアンに頼っていたら、おそらく人道的なプログラムは存在しなかつたでしょう」と。

しかし、私はこれを拝見して、「このたぐい」と言つておられるロータリアンたちが、その職

場で何をしているかということ、会長はご存じなのかと思ひました。

私は、ロータリアンの職場を訪ねることが好きです。というのは、そこには彼らの人生の責務に対する真摯さがみなぎっているからです。

私はロータリーには、二つの考え方があるように思われます。その一つは、ロータリークラブの活動それ自体を目的とする、いわゆる集団奉仕の考え方です。もう一つは、ロータリアンの職業人としての人生を、価値あらしめることを目的とし、クラブはそのための親睦を兼ねた相互研鑽の場とする、個人奉仕の考え方です。

ダクターマン前会長の立場が前者であることは明らかです。この考え方はすでに一九一七年に社会奉仕のあり方において、これを主張するグループの方々が、論争のすえ分離独立をされております。しかし、二三年に、いわゆる「決議二一―三四」によつて、この二つは統合されました。それはこの決議の最後に述べられておりますが、簡単にいうと、ロータリアンの一生における奉仕（個人奉仕）がロータリー本来の目的であつて、クラブにおける奉仕活動は、そのための訓練の場としての実験であるということです。

ロータリーは、一九〇五年に、まず職業奉仕の団体として創設されました。現在においても、ロータリアンとなる第一の条件は、彼らが何らかの職業に従事していることである、というの

は皆様ご承知の通りです。このことは、ロータリアンが職業人として現実のこの社会創生に参与する、つまり自らの職業を通して社会に奉仕するということが、ロータリー発想の原点を意味していると思ひます。それはまさしく奉仕中の奉仕であり、他の一切の奉仕を可能とならしめる源泉でもあります。

人道的なプログラムも大変結構です。しかし、それを決定するのは、ロータリアン一人一人の良心です。私は、ロータリーの目的はどこまでもロータリアンたちの、二度とない人生における価値の向上にあると思つています。

（第二七九〇地区 千葉県 内科医）